

自己評価報告書

平成23年 4月 7日現在

機関番号：11101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720193

研究課題名（和文） 中世盛期スペイン・エブロ川流域における城塞集落の形態生成論的研究

研究課題名（英文） A “Morphogenetic” Study of *Castra* in the Middle Ebro Valley from the Eleventh to the Thirteenth Century

研究代表者

足立 孝 (ADACHI TAKASHI)

弘前大学・人文学部・准教授

研究者番号：90377763

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：中世史

1. 研究計画の概要

本研究は、ラテン・ヨーロッパの「辺境」のひとつとみなされてきたスペイン北東部エブロ川流域における城塞集落の生成と形態変化の過程を具体的に明らかにすることにより、征服と入植をともなうアンダルスの「辺境」ゆえに中世地中海農村のなかでも城塞集落が本格的な発達をみなかったとされるスペイン北部がじつは城塞集落生成の先進地帯にほかならなかったことを具体的かつ実証的に明らかにしようとするものである。この作業では、文献史料はもちろん、歴史地理学や考古学といった隣接諸科学の知見をふまえて、定住形態、定住地の布置と空間の編成様式、定住地相互の政治的・社会経済的諸関係といった、同河川流域の定住構造の全体像がまずもって明らかにされなくてはならない。とはいえ、そもそも作業の基礎をなす文献史料は、主要な教会や修道院のカルチュレールを除けば、司教座聖堂教会や、テンプル騎士団や聖ヨハネ騎士団といった騎士団に比較的豊富に伝来する単葉形式のオリジナル文書が現在もなお未刊行のままであるから、各年度にスペインに一定期間渡航し、国立歴史文書館（マドリード）、アラゴン連合王国文書館（バルセローナ）、サラゴサやウエスカの司教座聖堂教会文書館に収蔵された未刊行文書の翻刻とデータベース化が、古地図や地籍図、最新の考古学的な発掘報告書の蒐集および分析とならんで欠かすべからざる作業であり、それらを逐次分析してゆく過程で具体的な実証研究を各年度に公表し、最終年度に準備される研究の総括につなげてゆくというものであった。

2. 研究の進捗状況

平成20年度には、サラゴサ大学図書館でシトー会のサンタ・マリア・デ・ルエダ修道院の未刊行カルチュレール、またアラゴン連合王国文書館では国王アルフォンソ1世の国王カルチュレールのひとつ『リーベル・テストメントールム』や同じく国王ペラ1世治世のオリジナル文書群、さらにはテンプル騎士団のカルチュレール『プリウィレギア・テンプラリオールム』といった未刊行史料の翻刻と読解が行われた。ついで平成21年度は、国立歴史文書館でテンプル騎士団や聖ヨハネ騎士のオリジナル文書、モンテアラゴン修道院やサンタ・クルス・デ・ラ・セロス修道院に伝来する未刊行文書の翻刻と分析が行われている。さらに翌年度には、ウエスカ司教座聖堂教会文書館に伝来する豊富な俗人文書群と、ウエスカ司教区文書館に伝来するサン・ペドロ・エル・ビエホ修道院のカルチュレールの翻刻と分析が行われた。以上の作業の成果は下記に掲げた論考にそのつど盛り込まれていると同時に、最終年度の研究の総括に向けて当初から必要と目された文献史料の蒐集と分析がほぼ満たされつつあるとあってよいであろう。また、上記の各文書館に同じく収蔵される古地図や地籍図の蒐集や、考古学知見の分析がこれとらんで逐次進められており、現在ではその大半が廃村と化している城塞集落の同定と地図データの充実を基礎として、その生成変化の具体的な過程が明らかになる一方、城塞化した集落と本格的な城塞化にいたらなかった集落の政治的かつ社会経済的差異がエブロ川流域全体であとづけられつつある。

3. 現在までの達成度

- ①当初の計画以上に進展している。
(理由)

上述のとおり本研究の遂行にあたり必要な材料はおおむね蒐集と分析が果たされつつあり、それをふまえた論考もそのつど公表してきているが、ことにサラゴサならびにウエスカ司教座聖堂教会文書館の俗人文書群についてはなお蒐集と分析の余地があるため、この作業は最終年度に集中的に遂行されなくてはならない。とはいえ、具体的かつ実証的な研究と並行して、本研究課題の意義をスペイン北東部のみならず中世地中海農村史・定住史の文脈のなかで位置づけるべく、スペイン北部全体、さらにはフランス南部やイタリアをも視野におさめた比較・総合研究をも手がける機会にも恵まれたため、その意味では当初予定された研究計画を大幅に超える成果をおさめているものと考えられる。

4. 今後の研究の推進方策

やはりスペインに一定期間渡航し、ウエスカおよびサラゴサ司教座聖堂教会に伝来する一部手つかずにせざるをえなかった俗人文書群の蒐集と分析を続行することで、もともと想定されていた必須文献史料の蒐集と分析がおおむね完了するため、ここから本研究を全体として総括すると同時に、従来の中世地中海農村史、ひいては中世西欧封建社会論における「辺境」の特殊性という一般的なイメージを乗り越えて、城塞集落の発達という意味での「辺境」の先進性がうきぼりにされることになるであろう。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①足立孝「ラテン・ヨーロッパ辺境における入植・定住形態・空間組織」『ヨーロッパ中世文明』ミネルヴァ書房、2011年刊行予定(査読有)
- ②足立孝「9-11世紀ウルジェイ司教座聖堂教会文書の生成論—司教座文書からイエ文書へ、イエ文書から司教座文書へ」『西洋中世研究』創刊号、2009年、87-105頁(査読有)
- ③足立孝「遍在する「辺境」—スペインからみた紀元千年—[下]」『人文社会論叢(人文科学篇)』22号、2009年、43-62頁(査読無)
- ④足立孝「遍在する「辺境」—スペインからみた紀元千年—[上]」『人文社会論叢(人文科学篇)』21号、2009年、59-75頁(査読無)

[学会発表] (計2件)

- ①足立孝「遍在する「辺境」—ガリシアからアルプス山脈まで—」西洋中世学会若手支援セミナー(京都女子大学、2009年10月10日)
- ②足立孝「遍在する「辺境」—スペインからみた中世ヨーロッパ—」第30回スペイン史学会大会(駒澤大学、2008年10月26日)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]